

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 6	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Depression precipitated by alcohol use in patients with co-occurring bipolar and substance use disorders. 双極性障害と物質使用障害を併発する患者の飲酒によるうつ病の誘発について	
執筆者 Jaffee WB, Griffin ML, Gallop R, Meade CS, Graff F, Bender RE, Weiss RD.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) J Clin Psychiatry. 2009 Feb;70(2):171-6. Epub 2008 Dec 30..	
キーワード 双極性障害、飲酒、うつ病、	
要 旨 背景： 双極性障害とアルコールなどの乱用障害はしばしば併発する。しかし双極性障害の飲酒についての影響は殆ど知られていない。この研究では双極性障害とアルコール乱用の患者に対してアルコール摂取がうつ病を増悪させるかどうかを調査する。	
方法： この研究は、双極性障害と乱用障害の患者のために定義付けされた集団療法の 2 つの臨床試験（最初の研究は 1999 年 3 月から 2004 年 3 月、そして、2 回目の研究は 2003 年 8 月から 2007 年 5 月に集められた）で集められたデータを使用した。115 人の参加者は、ベースラインと 8 ヶ月毎に評価された。基本的な診断は DSM-IV（アメリカ精神医学会）精神障害の診断と統計マニュアル第 4 版）で臨床的な問診で行われ、そして、毎月の物質使用と気分に関するデータは Longitudinal Interval Follow-Up Evaluation と嗜癖重症度指標（Addiction Severity Index）を使って集められた。一般化推定方程式は、これらの長期的データを分析するのに用いられた。	
結果： 第 1 の主要な仮説は裏付けられた。現在のうつ状態の落ち込みとそのための薬物使用をコントロールした際、飲酒の日数と飲酒日数の増加は各々、それ以降に抑鬱性のエピソードの存在を予測した。	
まとめ： これらのデータは双極性障害で飲酒と、依存が短期間において抑鬱性のエピソードの危険性を増すという事を示唆した。	